

アニメーション制作の基礎Ⅱ

科目ナンバリング ARL-212
選択 2単位

康村 諒

1. 授業の概要(ねらい)

アニメーションは静止しているモノを、あるいは画像を動かして、動く映像として見せるメディアですから、その創造(空想も現実も)は自由自在、创作者の思いのままに制作されます。故にアニメーション創作の歴史はまず素材があり、それをどのように動かすかが課題でした。アニメーションを理解するためにはこれらの素材からの分類方法とそれを創作するクリエイターが大きな鍵となっています。そのため前期講義では基礎的なアニメーションのジャンル分けを中心に、実際の映像と理論と結びつけました。

後期講義では前期の基礎的な分類からもう一歩踏み出して、作品を通してクリエイターの作家性、作家論を考えます。

2. 授業の到達目標

本講義ではアニメーションのジャンル分けからさらに踏み出して、作家性、作家論を考えます。その作品を通して、作家の狙い、作家の意図をつかめるようにします。

3. 成績評価の方法および基準

平常点(授業への出席率・参加度)50%、期末試験50%
※出席率は3分の2以上を単位の条件とします。(公欠を除く)

4. 教科書・参考文献

教科書

プリントを適宜配布。

参考文献

小野耕世 『世界のアニメーション作家たち』(2006年) 人文書院
スティーヴン・キャヴァリア 『世界アニメーション歴史事典』 ゆまに書房、2012年
横田正夫・池田宏・小出正志共編 『アニメーションの事典』 朝倉書店、2012年

5. 準備学修の内容

現在放送・封切られている商業アニメーションだけではなく、アートと呼ばれるアニメーションも見よう心がけてください。

6. その他履修上の注意事項

作品、作家の紹介はシラバスとは多少前後することもあるので注意すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 前期のまとめとガイダンス 宮崎駿①
- 【第2回】 宮崎駿②
- 【第3回】 ミシェル・オスロ
- 【第4回】 ルネ・ラルー
- 【第5回】 ジミー・T・ムラカミ
- 【第6回】 フレデリック・バック
- 【第7回】 川本喜八郎
- 【第8回】 アレクサンドル・ベトロフ
- 【第9回】 ヤン・シュヴァンクマイエル
- 【第10回】 ユーリ・ノルシュテイン
- 【第11回】 新海誠
- 【第12回】 山村浩二／加藤久仁生
- 【第13回】 ポール・グリモー
- 【第14回】 スーザン・ピットとまとめ
- 【第15回】 総まとめとテスト